

#### 4. 罫調査一頭数のカウント

冬季の罫調査は、にいがた野鳥の会の皆さんの協力を得て実施した。調査を担当いただいた方々からは、事前の確認踏査の記録等も含めて、現地調査結果の報告をいただいた。

##### (1) 北区

担当 羽田 守

7月24日～26日 北区松浜町（三菱ガス化学構内）

繁殖活動が終了した7月頃から、夕方に三菱ガス化学方面に移動しているカラスの群れがいることはわかっていった。

7月24日～26日に三菱ガス化学の海岸側から観察したところ、構内のタンク上や枯木に、最多で200羽のハシブトガラス、ハシボソガラスがみられた。比率は半々くらい。夏から秋にかけて三菱ガス化学構内をねぐらとして利用しているものと思われる。

10月29日 12:00頃 北区内沼

ミヤマガラス80羽、ハシボソガラス3羽、水田で採餌。ミヤマガラスは今期初認。

10月31日 17:30頃 北区名目所（北地区体育館前）

ミヤマガラス300羽、数羽のハシブトガラス、ハシボソガラスを交える。

電線に止まり、数羽から十数羽が三菱ガス化学方面に飛去。三菱ガス化学のねぐら入り前の集結場所と思われる。

11月6日 16:20～17:10 北区名目所（北地区体育館前）

ミヤマガラス300羽、ハシボソガラス30羽、ハシブトガラス数羽を確認。

電線に止まり、数羽から十数羽づつが三菱ガス化学方面に飛去。ねぐら入り前の集結と思われる

12月3日 10:10～16:30 北区の北半分

松浜～太夫浜～太郎代～浦ノ入(牛舎)～木崎～笹山～福島湯～鳥穴～太田～前新田～早通～松潟～競馬場～松浜

全体でハシブトガラス26羽、ハシボソガラス160羽、ミヤマガラス12羽、不明7羽。

多くは2羽ペアで田んぼで採餌。前新田でハシボソガラス100羽の群。ミヤマガラスは笹山で2羽と早通の10羽。大きな群でないミヤマガラスは大変珍しい。他に太夫浜のハシブトガラス。

16:00～16:30 北区名目所（北地区体育館前）

1羽も飛来せず。11月3日から12月3日の間に、三菱ガス化学構内で、何らかのねぐら対策がなされたものと思われる、この場所での「ねぐら入り前の集結」がなくなったと考えられる。

夕方、阿賀野川上を西に渡っていくカラスが観察されているので、ねぐらを変えたものと思われる(多分、五十嵐浜と思われる)。

12月5日 13:15～15:30 北区の南半分

新鼻～内沼～大月～山飯野～長戸呂～大瀬柳～長戸～高森新田～阿賀野川右岸土手道

全体でハシボソガラス49羽、不明5羽。ハシブトガラスとミヤマガラスはこの日は観察できなかった。

内沼で10羽のハシボソガラスの小群をみた以外は、2羽のペアで田んぼで採餌が多い。

12月14日 10:30～14:00 北区全体

太郎代～太夫浜～横戸居～浦ノ入～太田～村新田～福島潟～新鼻～内沼～大月～山飯野～長戸呂～大瀬柳～高森新田～早通～松潟～競馬場

全体でハシブトガラス2羽、ハシボソガラス60羽、ミヤマガラス300羽。

ミヤマガラスは大月の田んぼで採餌。ハシボソガラスは内沼の田んぼで30羽のルーズな小群。他は主に2羽ペアで田んぼで採餌。ハシブトガラス2羽は競馬場北側の厩舎近くでのみ確認。

12月27日 14:00～15:30 北区南半分

前新田～新鼻～内沼～大月～山飯野～長戸呂～高森新田～大瀬柳～長戸～早通

全体でハシボソガラス10数羽のみ。ハシブトガラス、ミヤマガラスは確認されず。

12月29日 10:00～15:00 北区全体

松浜～太夫浜～太郎代～競馬場～松潟～鳥屋～内島見～浦ノ入～笠柳～太田～村新田～前新田～新鼻～内沼～大月～山飯野～大瀬柳～高森新田（積雪のため、主に幹線道路からの観察）

全体でミヤマガラス373羽、ハシブトガラス70羽、ハシボソガラス60羽。

ミヤマガラスは3箇所、浦ノ入の牛舎近くの田に3羽、村新田の田んぼに70羽の群、山飯野に300羽の群、採餌しながら大瀬柳方面へ移動。

ハシブトガラスは競馬場北側の小さな田んぼに50羽の小群と浦ノ入の牛舎近くの田に20羽のルーズな群。

ハシボソガラスは10羽くらいと20羽くらいの小群2箇所と、主に2羽ペアで田で採餌しているものが多かった。



図4-3 北区の確認踏査図

## (2) 東区—新潟市におけるカラス生息調査

担当 伊藤 利章

観察日時：平成22年12月18、19、23日、補足日として平成23年1月8日

観察場所：新潟市東区じゅんさい池公園

### 【はじめに】

5月に調査を行って確認した営巣・繁殖場所について、埒としているかどうかを確認した。その結果、じゅんさい池公園で夕方、カラスが集まってきて埒となっていることを確認。

### 【観察状況】

12月18日

じゅんさい池公園の東池の北、蛍の観察池から西側の松林に約200羽(飛んでいる状態で確認)。ボソ、ブト、ミヤマ混在。割合については、ボソ、ブトのほうが多く、ミヤマの数は3割程度(ボソ、ブトの割合は確認できず)。東池と西池の遊歩道北側住宅街の電線にミヤマが100羽程度留まっていた。しかしながら、集まっては、飛び立ちを繰り返し、戻ってくる集団もあれば、飛び去っていく集団もあり落ち着かない様子であった(飛び去っていく集団は、西方向が多い)。

12月19日

午後3時頃よりカラスの飛来の様子を観察。しかしながら、前日とは全く異なり飛来してこない。前日の北側の松林、北側の電線にカラスの姿は見られない。東池南側(駐車場の西側)の松林にボソ、ブトが留まったり、飛んでいったりの繰り返しで、数としては、飛び立っている状況で50羽程度。西池側の枯れ木にミヤマを20羽程度確認。

12月23日

12月18日と同じように東池北側に200羽程度確認(飛んでいる状態での概算)。ボソ、ブト、ミヤマ混合で、割合の詳細まで確認できないが、ミヤマは3~4割程度と思われる。北側の電線には、ほとんど観察されず。東池、西池を結ぶ遊歩道から西池側でミヤマが100羽程度確認。遊歩道南側の住宅街電線にミヤマを50羽程度確認。

12月中の3日間観察を行った、3日とも集まる場所が異なっていた。

平成23年1月8日

昨年12月に3日間観察したが、3日間とも観察状況に差が見られたため追加で観察を行った。カラスが集まっている場所は、昨年の12月19日と同様。南側の松林でカラスを確認。松林に留まっては、飛び去り頻繁に出入りしていた。東池北側、遊歩道北側住宅街電線にはカラス無し。遊歩道南側住宅街の電線にミヤマが100程度確認。

南側の松林には、最初ボソ、ブト優位でミヤマ含めて200羽程度、ミヤマは3割程度(飛んでいる状態での概算)。その後、南側住宅街のミヤマが集合、日が暮れてからもミヤマが20羽程度集合。合計300羽程度の集団と考えられる。

### 【考察】

4日間、じゅんさい池公園で観察を行った。夕刻(午後5時を過ぎ、かなり暗い状況である)、カラスが順次集まってきて、そのまま去っていかないことからこの公園が埒になっていると考える(1月8日(積雪有り)の観察で一番多くの個体を確認できた)。

また、池近くの住宅街の電線(池の南側)に集まり、公園の松林に向かって来ていることから、この場

所が埒なっていると考え。しかしながら、公園近くの電線(北側)に集まり飛び去っていく集団もあったので、公園を集結場所にして他の埒に移動している集団もある可能性も考えられる。一方では、また戻ってくる可能性も考えられる。

カラスの飛来について、同一集団が公園内の場所を日々変えて埒にしているのか、別な集団が集まってきて場所を変えているのかは不明である。カラスの集団、留まる松林の場所について、一定の傾向があるかどうかについては長期間の観察が必要と考える。

集結場所については、2日間で東池と西池の中間より南側の住宅地の電線にミヤマが見られた。また、進入経路については、南方向、東方向からの個体がみられた。

#### 【まとめ】

じゅんさい池公園はカラスの埒になっていることが確認できた。ボソ、ブト、ミヤマ混在で全体数は200から300羽程度と推察。割合はミヤマが3割から4割と考える。ボソ、ブトの割合については識別できなかった(鳴き声からも両者混在である)。

### (3) 中央区ーカラス冬季罫調査

担当 赤原 清枝・太刀川 勝喜・伊藤 泰夫

2010年 12月13日(月) 16:00~17:00

#### 【ところ 及び 方法】

1. 主にミヤマガラスを対象として、関屋金衛町一丁目から西方向へ関屋分水付近まで10箇所位を定めてカウントし合計した。

主な集中箇所は、①汐見台、②関屋中学校グラウンド、③バス通りの電線、④日本歯科大学グラウンド、⑤浜浦小学校グラウンド及び体育館屋根 等である。

2. 最終的な罫はフェンスに囲まれた通称アカハラ小屋のあるクロマツ林で、各方面から多数の群れが集まってくる様子が観察されたので、浜浦小学校のグラウンドに立ちカウントした。16時30分から17時がピークで、この日は雨のためか罫入り前の最後の大乱舞は見られず直接松林に飛び込んでおとなしくなったようだ。

3. ハシブトガラスは大豊マンション屋上を中心に集まり松林へ入るようだ。多分ミヤマガラスの罫より東寄りの「母の森」の辺りと思われる。

#### 【結果】

①ミヤマガラス 3,558羽

②同上 3,580羽

①と②の カウント数は ほぼ一致した。なお調査開始前に既に松林内に入ってしまったものや、見落とし、カウント不能などが少なくとも10%程あると思われるので、最終的にはミヤマガラス3,600~4,000羽と見積もられる。

③ハシブトガラス 330羽

④ハシボソガラス 50羽

バラバラに分散していて 罫形成は見られなかった

⑤コクマルガラス 飛行中の鳴き声は聞いたがはっきりした確認は出来なかった。

付記 ミヤマガラスはここ数年間当地区では増加傾向にあり 春には渡去するもののねぐら入り前に主に電線に集結しフン害などをもたらし、住民にとっては頭痛の種である。過去に鶴岡市では東北電力と協力して電線に針金を張り退散させた成功例があり、これらを参考に有効な対策を立てられないものだろうか?

---

2010年 12月19日(日)、伊藤さんからの情報

13日以降、天候良好な日に改めて調査を実施したところ、ミヤマガラスの大群を確認した。カウント数は6,000羽を越えるほどで、雨天であった13日に比べ正確にカウントできた。

13日のような雨天の場合、カラスは早めにマツ林に入り、その後は騒ぐことがないので、数えられない個体があったものと思われる。

#### (4) 江南区－カラスのねぐら調査

担当 熊木 高志

江南区においては、カラスのねぐらは発見されなかった。(2011年1月8日)

#### (5) 秋葉区

担当 佐藤 安男

2010年12月29日(水)

夕方、現地（新潟市バイオリサーチセンター付近）に出向き観察と写真撮影。

周辺水田も含めて5,000羽以上と推定。ほとんどがミヤマガラスであった。



ねぐら位置図

#### (6) 南区－南区ねぐら調査

担当 村上 正志

2010年 12月19日(日)

15:30 大野

国道8号を南下、カラス(ボソ、ブト)がすべて南東方向へ移動していくのを確認。

16:00 清水の十字路を左折

16:05 五反田橋、保明大橋を渡り、小須戸・三条線を北上

16:20 埜は田上町の国道403号より東側の山側にあると推測される。

菱潟の信濃川沿いの落葉樹(樹種不明)に巣と猛禽類1羽を確認。

結局、南区における埜は発見できなかった。

(7) 西区

担当 村上 正志

2010年 12月23日(水)、小雨

新潟大学五十嵐キャンパス前

6:15 新大西側セーブオン前

既に奥のマツ林にミヤマガラスが乱舞。ハシブトガラス、ハシボソガラスが出かけはじめる。

6:30 ミヤマガラスの動きが活発で、校舎の屋上は黒山のカラスばかりである。

6:40 電線に集まり始めた。

7:00 電線にびっしり。ポツポツと出かけはじめる。すべての群が西蒲区方面へ向かっていった。

7:20 電線に止まっている数は半分くらいになる。

ミヤマガラス 5,000羽以上

ハシブトガラス 50羽以下

ハシボソガラス 50羽以下

※ 他の会員よりコクマルガラスが4~5羽混ざっているとの情報あり。



## (8) 西蒲区－冬季時カラスの罫調査

担当 矢部 健吾

(2日間 太刀川 勝喜さんに応援をいただきました)

日時：2010年12月19、21、23、25、26、27日 14時30分～17時30分

方法：潟東、巻町、岩室、中ノ口、越前浜等を車で移動しながらカラスをさがしました。

①10羽、20羽のハシボソ、ハシブトカラスは見られましたが大集団になるミヤマガラスは観察出来ませんでした。

②各地域の見晴らしの良い農道に待機して、夕方16時頃より罫に向かうカラスを追跡。それぞれが福井にある新潟ゴルフクラブ方向へ飛翔するのを確認。

③三根山藩址のある峰岡地域に広大な杉林があり、カラスが周辺に集結しており電線に540羽、田圃に56羽、立ち木に37羽、離れた電柱電線に690羽が確認できた。

その他にも罫入りする杉林の頂部周辺に200羽以上が止まっているのを確認。

④幸運だったのは罫入り前の大乱舞を頭の上で見せて貰い大感動でした。

### 【カラスの総数】

四方八方より集結するので数を限定するのは難しいですが、罫入り前の大乱舞と集結していた数を勘案しまして2,300羽以上は集まっていたと推察しました。

### 【種別の割合】

ハシボソガラス	(6割)	1,380羽以上
ハシブトガラス	(4割)	920羽以上

### 【付記】

罫を確認してから4日間ほど通ったんですが天候も悪く雪がありカラスの行動も活発でなく、ほとんどが日中から罫周辺の杉林に多数がとまって騒いでおり、民家の屋根、電柱に10羽、15羽とみられるだけでしたが、夕方には四方から集まって来るのを確認しました。

ミヤマガラスは西蒲原中の田圃を毎回見てまわりましたが 残念ながら1度も確認できませんでした。ただし、1月20日に上堰潟の田圃で800羽程の集団を目撃し追跡しました。

上堰潟脇の田圃→赤塚の田圃→内野の田圃→新大方面へと移動して行きましたので新大の松林に罫があるものと推察されます。

(9) 確認個体数

各行政区の調査結果に基づき主な埜における確認個体数を総括すると表4-2のようになる。今回は各行政区ごとに調査担当を分担し、任意な形で調査を実施した。このため調査日時や調査方法・精度に違いがあるが、確認個体数の総数は18,000±羽となった(図4-4)。

①ミヤマガラス

このうち関屋の海岸林、新潟大学五十嵐キャンパス、秋葉区の新潟市バイオリサーチセンター付近の埜に集まるミヤマガラスは、いずれも5,000羽を下らない規模であることが確認されていることから、新潟市に渡来するミヤマガラスの数は15,000羽以上となっている。

ミヤマガラスの渡来数について、風間辰夫(2004)によれば、1990年冬季頃に村上市、岩船郡、北蒲原郡、新発田市辺りを中心に3,000羽くらいが越冬するようになり、1994年には新潟市内でも1,000羽以上が観察されるようになったという。

表4-2 主要な埜における確認個体数

区	主な調査地点	調査日	確認数				備考	推定生息数	
			ハシブト ガラス	ハシボソ ガラス	ミヤマ ガラス	混群・不 明			計
北区	三菱ガス化学	7/24~26	200	-			200 -	ブト、ボソ 半々	400 ±
	内沼	10/29		3	80		83	ミヤマは今期 初認	
	名目所	10/31	5	±	300		305 ±	三菱ガス化学 方面に飛去	
		11/6	5 ±	30	300		335 ±	三菱ガス化学 方面に飛去	
	北区の北半分 前新田	12/3	26	160 ±	12	7	205 ±	ミヤマは笹山 で2羽、早通 で10羽	
				100 ±				ねぐら入り前 の集結なし	
	北区の南半分	12/5		49		5	54		
	北区全体	12/14	2	60	300 ±		362 ±		
北区の南半分	12/27		15 ±			15 ±	10数羽		
北区全体	12/29	70 ±	60 ±	373 ±		503 ±			
東区	じゅんさい池公園	12/18			100 ±	200 ±	300 ±	混群のミヤマ の数は3割	300 ±
		12/19	50 ±		20 ±		70 ±		
		12/23			150 ±	200 ±	350 ±	混群のミヤマ の数は3~4割	
		1/8			100 ±	200 ±	300 ±	混群のミヤマ の数は3割	
中央区	関屋海岸林 汐見台、関屋中 学校、バス通り の電線、日本歯 科大学、浜浦小	12/13	330 ±	50 ±	4,000 ±		4,380 ±	コクマルの情報 あり	5,000 ±
		12/19			6,000 ±		6,000 ±		
江南区	埜、確認できず					0			
秋葉区	バイオリサーチセンター付近	12/29			5,000 ±		5,000 ±	5,000羽以上	5,000 ±
南区	埜、確認できず	12/19	ハシブト、ハシボソが 南東方向に移動してい くのを確認				0	埜は田上町方 面の山林か？	
西区	新潟大学五十嵐キャンパス	12/23	50 -	50 -	5,000 +	5 ±	5,105 ±	コクマル <sup>4・5</sup> 羽の情報	5,000 ±
西蒲区	三根山藩址のスギ林	12/19、 21、23、 25、26、 27	920 +	1,380 +			2,300 +		2,500 ±
	上堰湯→赤塚→内野→新大	1/20			800 ±		800 ±	ミヤマの大群 を追跡	新大へ
							計		18,200 ±

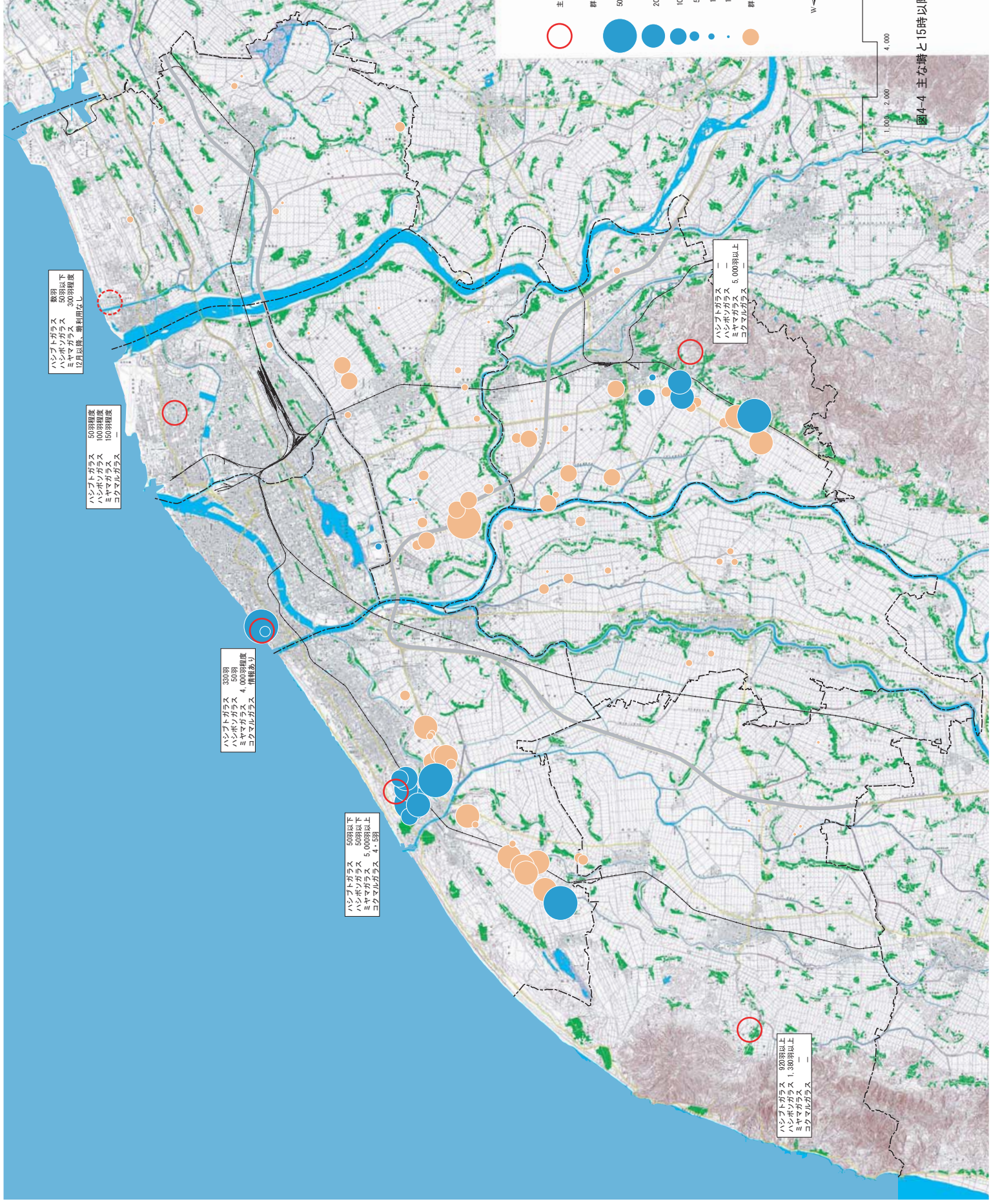


図4-4 主な時と15時以降の群の分布

そして1999年11月～2003年3月までの調査により、新潟市(赤塚～関屋)での越冬数を3,500～4,000羽くらいと推定している。平成14・15年度(2002・2003)のにいがた野鳥の会(新潟市委託)の調査でもミヤマガラスの数は4,000±羽と推定されている。

また風間辰夫(未発表)の2008年11月～2009年3月の新潟大学構内の埒を中心とした調査では6,000～7,000羽とされており、新潟市に渡来するミヤマガラスの数は年々増加の傾向にあるようである(図4-5)。

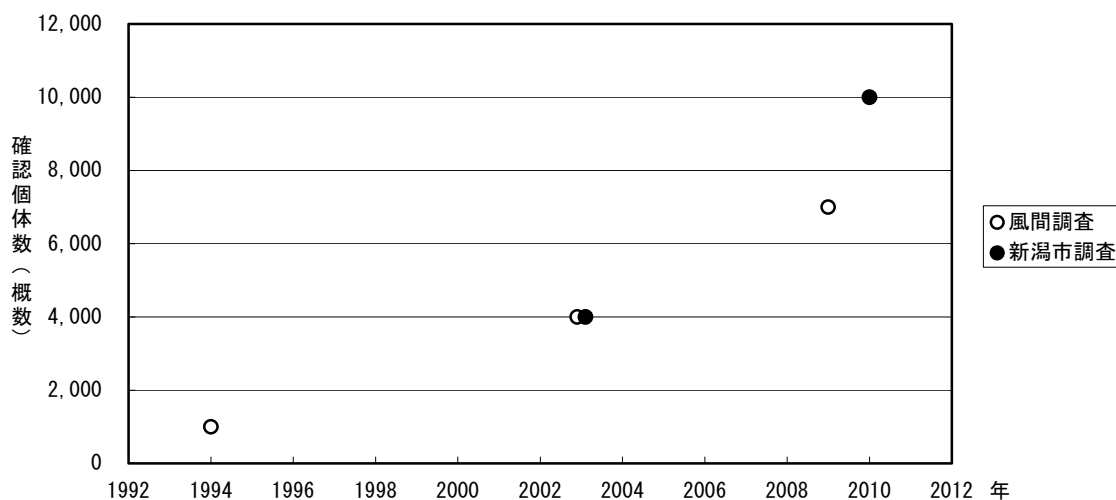


図4-5 旧新潟市域におけるミヤマガラスの渡来数(概数)の経年変化

## ②ハシブトガラス・ハシボソガラス

一方、今回の冬季埒調査では、ハシブトガラス、ハシボソガラスの個体数については十分な捕捉ができなかった。西蒲区の三根山藩址のスギ林のハシブトガラス、ハシボソガラスの埒(2,300+羽)の他に大きな埒は確認されず、ミヤマガラスの大群が集結する埒ではハシブトガラス、ハシボソガラスの確認個体数は多くはなかった。

平成14・15年度の調査結果よりもハシブトガラス、ハシボソガラスの確認数がかなり少ないのは、北区の三菱ガス化学構内の埒が無くなったことによる影響も大きい。また、いままでこの埒に集結していたガラスがどこに移動したのかその所在についても確認できなかった。

## ③コクマルガラス

ミヤマガラスとともに渡来するコクマルガラスについては、関屋海岸林や新潟大学構内での目撃情報があったが、この調査としては確認できなかった。

平成15年度の調査では、ミヤマガラスと混在するコクマルガラスの他に、コクマルガラスのみの集団(50羽以上)を確認したと報告されている。また、風間辰夫(未発表)は、2008年11月～2009年3月の新潟市内の調査において、西区の流通センターの電線にとまっている30羽余りのコクマルガラスを記録したことを報告しており、ミヤマガラスの増加に伴いコクマルガラスも増えるものと推測している。